



## 次世代育成のための特別講演会を開催しました(2月7日)

平成25年2月7日(木)、大分文化会館にて、大分県立大分舞鶴高等学校平成24年度スーパーサイエンスハイスクール(SSH)成果発表会が3部構成で行われました。

第2部は、大分大学主催で、学長挨拶の後、女性宇宙飛行士の山崎直子氏をお迎えし、「宇宙、人、夢をつなぐ～未来へはばたく皆さんへ～」をテーマに特別講演会を開催しました。

山崎氏は、天体に興味を持った幼少時代のことや、宇宙飛行士と認定されてからの厳しい訓練のこと、実際に滞在した宇宙ステーションでの生活についてなど様々な内容を講演されました。

宇宙飛行士として、実際に宇宙に行くまでには11年間という時間がかかりましたが、「宇宙に行けることを信じて、毎日訓練を重ねました。何事も日々の積み重ねが大事です。」と、話されました。

質疑応答の時間では、山崎氏は壇上から降りて高校生と向かい合いながらお話していただきました。高校生からは「宇宙をはじめに見たときの感想は？宇宙人はいると思いますか？」など様々な質問があり、山崎氏からは、「宇宙人はいてほしい。地球は生きています。」など神秘的な話を聞くことができました。

講演後、高校生からは「目標をもって努力を続けることの素晴らしさを聞いてよかった」との、感想があり大変有意義な講演会となりました。



## 男女共同参画トップセミナーを開催しました(1月29日)

平成25年1月29日、国立大学法人北海道大学の副理事で女性研究者支援室長の有賀早苗先生を講師にお招きし、トップセミナーを開催しました。

北海道大学は、文部科学省の補助事業である「女性研究者支援モデル育成」事業を平成18年度に採択された、いわば、本事業の第1期校であり、現在は「女性研究者養成システム改革加速」事業の採択を得て、女性研究者の増員等に取り組んでおられます。

有賀先生は、平成18年度の事業採択当初から、女性研究者支援室長として活動されており、そのパワフルな活躍は、全国的にも傑出されています。

当日は、北野学長以下全理事、全学部長、そして、女性研究者サポート室推進委員会委員の出席も得て、学長挨拶の後、講師の具体的な活動に基づいた講演「大学における男女共同参画、なぜ必要？何が必要？」を聴講しました。

講師は、最後に、北海道大学女性研究者支援室のノベルティを参加者全員に提供し、事業を推進するためにはいろいろなアイデアも必要と述べられるとともに、男女共同参画に関する取組の推進について、役職者の理解を求めました。



# 特集

# 高校生意識調査

## ～高校生からみた大分大学、男女共同参画社会について～

大分大学では、次世代育成のため、地域の高校生からみた『大学に対する意識や大分大学のイメージ』『男女共同参画社会についての考え』などを調査し、今後目指すべき方向性のヒントを得るため、大分舞鶴高校の1年生・2年生を対象に意識調査を行いました。ここに一部を紹介します。

本調査の詳細はサポート室HPの発行物に掲載しておりますのでご覧ください。

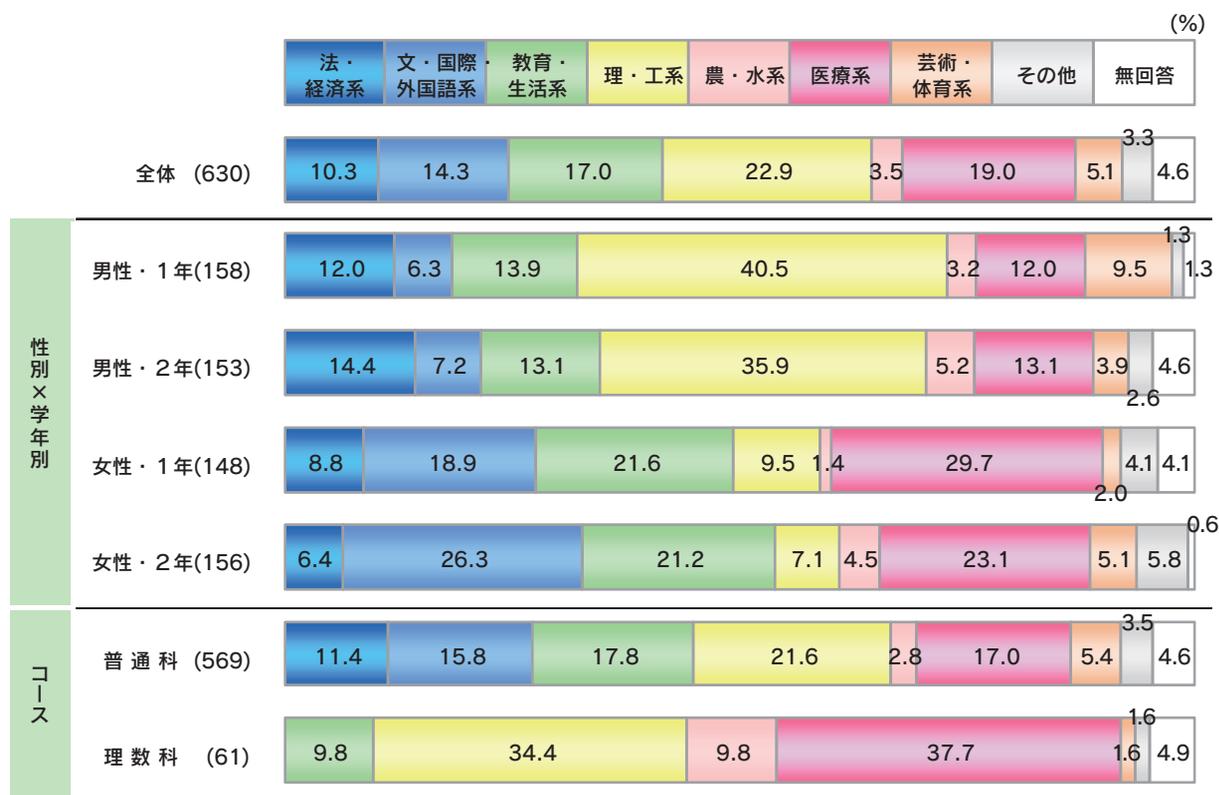
### 【基本情報】

回答数：630

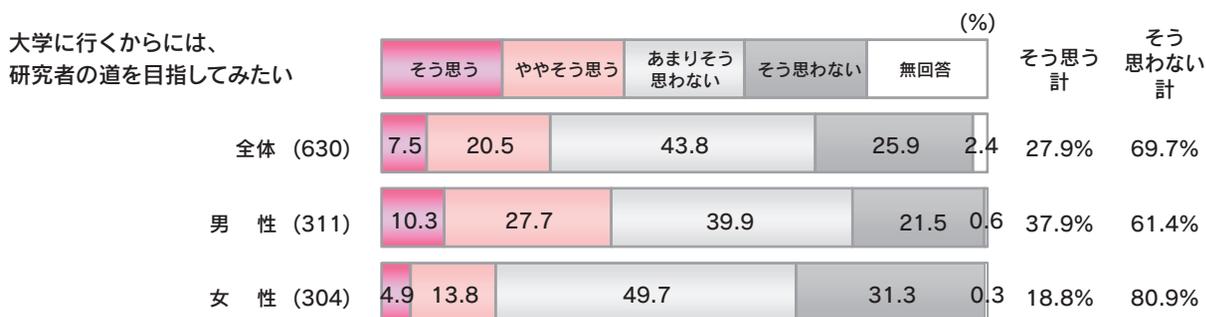
学年：1年（315）、2年（315）

性別：男性（311）、女性（304）、無回答（15）

### Q1:あなたの志望学部はどこですか？



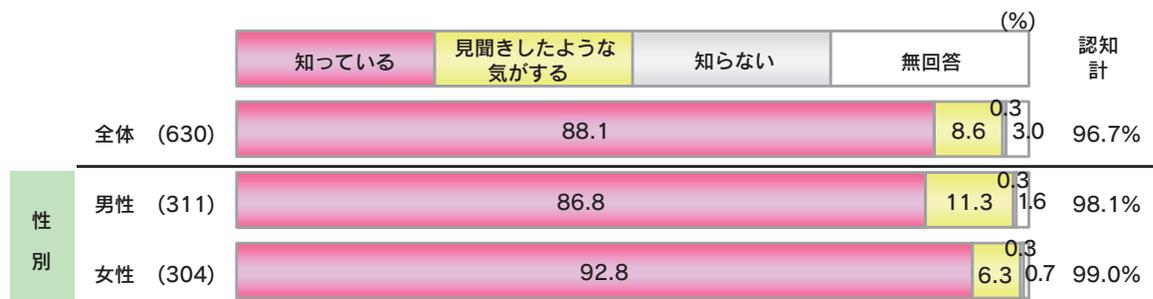
### Q2:「大学卒業後、大学内に研究者として残る」という考え方についてどう思いますか？



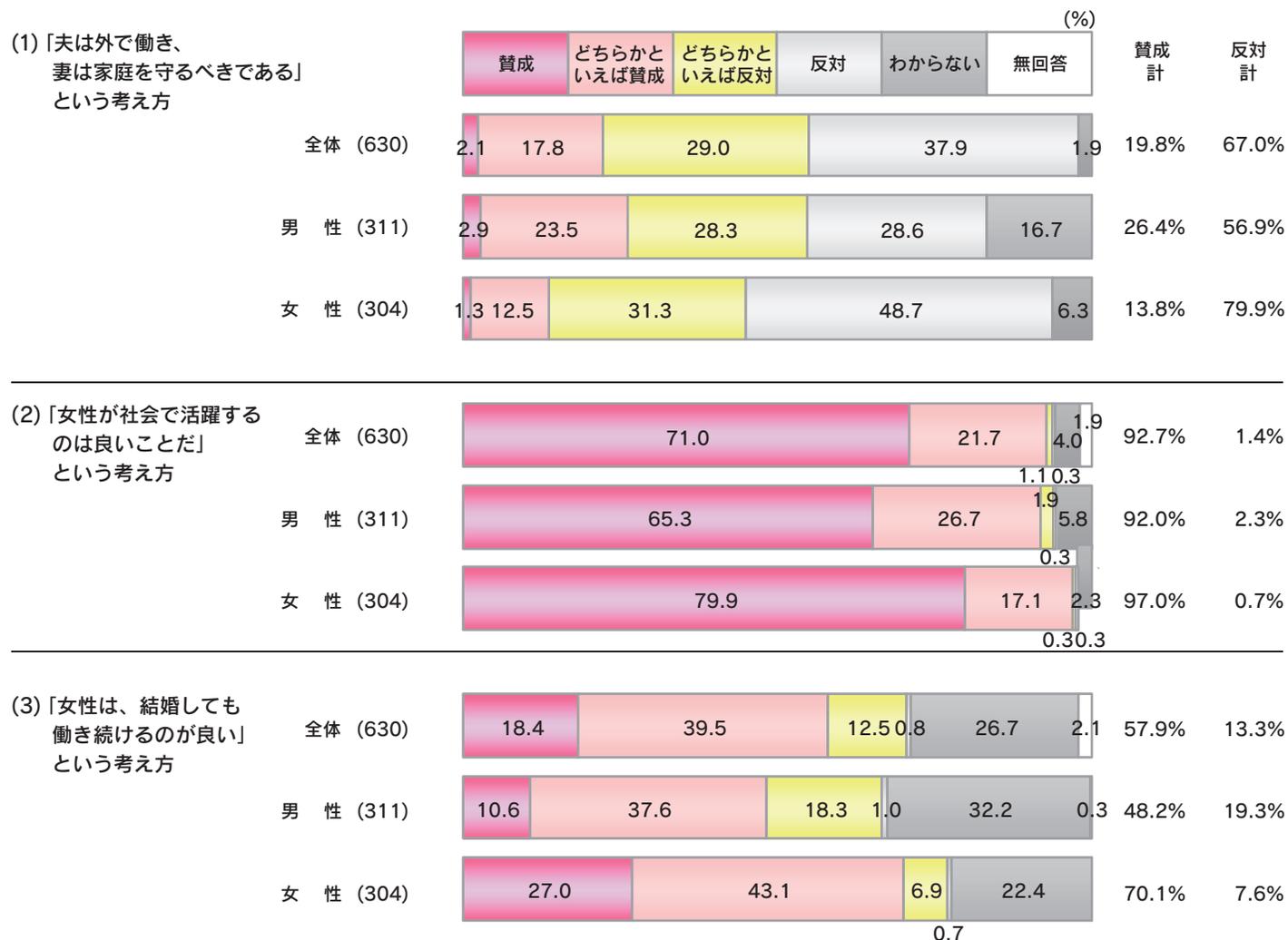
Q3:「大分大学」について、受験・進学の対象として考えた時にどれくらい興味がありますか？



Q4:「男女共同参画」という言葉は知っていましたか？



Q5:下記(1)～(3)の考え方について、「賛成」・「反対」のどちらの立場ですか？



## 「第4回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウムin大分」を開催しました(12月15日)

「つづけること、つながること 九州・沖縄の絆のちから ～研究者が能力を発揮して輝くために～」をメインテーマに、九州・沖縄の8国立大学法人の共催によるシンポジウムを大分市のホテルで開催しました。

主催者を代表して北野正剛大分大学長による開会挨拶、来賓紹介、そして来賓を代表して二日市具正大分県副知事にご挨拶をいただきました。

次に、斉藤尚樹文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課長による基調講演が行われました。斉藤課長は、「女性研究者の現状と九州・沖縄地区大学への期待」と題して、国際比較による日本の女性研究者の現状を説明したうえで、今後の科学技術の発展に女性研究者の力が必須であること、そのために男性教員の意識改革や他大学のモデル事業を積極的に取り入れていくことを提案されました。

引き続いての特別講演では、大分県竹田市出身で現在は東京銀座で経営者として活躍中の白坂亜紀氏に「銀座のママから学ぶ人間力」と題して、ご講演いただきました。白坂氏は、仕事と家庭の両立が認められなかった職場風土の中で、両立のために経営者の道を選んだことなど、ご自分の経歴を踏まえながら、女性の能力はすばらしく、それを生かさないと勿体ないこと、男性対女性という対立構図ではなく、お互いに補い合って活力ある地域をつくっていかねばならないと話されました。

休憩の15分間にサポート室が作成した広報用DVD(平成22年度作成)などをスクリーンに放映しました。

次に、松浦室長から大分大学の3年間の取組と今後の展望を紹介しました。広報用DVD第2弾となる「輝け、明日に！ 一大分大学女性研究者編」も放映されました。

その後、JSTの山村康子氏をコメンテーターに迎え、8大学の理事・副学長・学長特別補佐によるパネルディスカッションを行いました。「女性研究者支援を『続ける』ために必要なこと」をテーマに、各大学の取組を紹介しながら、課題等について率直に意見を出し合いました。

最後に「大分宣言」を採択して、シンポジウムを終了しました。



### 【大分宣言】

すべての研究者が研究機関において、男女を問わず等しくその能力を発揮し、多様かつ独創的資質を最大限に活かしてさらなる飛躍ができるために、第4回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム参加者一同が、九州・沖縄の女性研究者支援の絆を、これからも持続的により広くより強くしていくことをここに宣言します。

- 1.わたしたちは、女性研究者支援の絆をひろげ、より強い結びつきを持ち続けるために、ネットワーク強化をさらに推進します。
- 2.わたしたちは、男女共同参画に基づき、その能力を最大限に発揮できる研究機関の環境やしきみづくりをさらに推進します。

### 女性研究者支援から、男女共同参画推進へ

平成24年度で、文部科学省科学技術人材育成費補助金 女性研究者研究活動支援事業(女性研究者支援モデル育成)が終了します。平成25年度以降は、女性研究者支援から更にステップアップして、大分大学での男女共同参画推進に取り組んで参ります。今後とも皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

### ■編集後記

女性研究者サポート室“FAB”は事業採択後3年間、ニュースレターの発行をはじめとして様々な活動に取り組んできました。たくさんのご協力本当にありがとうございました。

4月から名称新たに、さらなる活動を行っていきたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。